

ラベル多様化 思い反映

焼酎の進化は飲み方や味わいにとどまらない。宮崎県日南市の櫻の郷酒造が2021年から受託製造する芋焼酎「EMO」は、ラベルの多様化を物語る。アニメの主人公のような、ファッション誌の表紙のような女性のイラストが受け、販売数を年々増やしてきた。

焼酎

新時代
A NEW ERA OF SHOCHU

蔵元に委託してオリジナル商品を作る福岡県の企画者集団「さけのいちぎ」が手がけ、ラベルは同県のイラストレーター・ざしきわらしさんに頼んだ。小平ゆきえ代表は「若いファンの掘り起こしを狙った軽快な味わいと、イラストの空気がぴったりはまった」と

蔵元に委託してオリジナル商品を作る福岡県の企画者集団「さけのいちぎ」が手がけ、ラベルは同県のイラストレーター・ざしきわらしさんに頼んだ。小平ゆきえ代表は「若いファンの掘り起こしを狙った軽快な味わいと、イラストの空気がぴったりはまった」と

第2部 進化の現在地 ⑤

手心えを語る。

麦焼酎の「MUGY」、芋焼酎と紅茶を合わせた「EMOT」の3本シリーズで、都会のカフェにも並ぶ。「飲食店の引き合いが増え、焼酎に興味のなかった人が手に取ってくれている。ラベルの力を感じる」

酒類卸の南九州酒販（鹿児島市）は、県内6蔵元の地元の観光地や祭りをラベルに描く「薩摩六名所六銘酒」を販売する。6本並べ



南九州酒販が数量限定販売する「薩摩六名所六銘酒」

世界見据え重要性高まる

と絵巻物のような「絶景」が浮かぶ。今辻大輔販売促進課長(43)は「蔵元のつながりが強い鹿児島らしい『ワンチーム』の取り組み」と話す。12年に限定販売したものを、23年の鹿児島国体を機に復刻。新デザインは奄美大島のイラストレーター・尚味さんが描いた。世界自然遺産の屋久島や志布志市のお釈迦まつりのラベルには、旅情を誘うきつかけになればとの期待がこもる。

熊本県あさぎり町にある高田酒造場の米焼酎「あさぎりの花」のラベルは、パステルカラーのグラデーションが華やかだ。酵母にナデシコを使った花酵母の焼酎で、高田恭奈専務(38)は「名前の『花』と、味や香りのフルーティーさを強調したくてこの色合いになった」と説明する。

ラベルを含めた商品ブランドを、宮崎県日南市・海老原、南日本新聞・吉窪颯太、熊本日日新聞・熊川果穂



高田酒造場の「あさぎりの花」